



ニコニコ自治会

■面積・戸数：約18.3ha、約500戸

1. 団体の概要

- ① 団体の種別：自治会
- ② 団体全体の予算：年間約120万円（そのうち、まちなみの植栽維持管理などに年間約36万円）。活動費120万円、外部委託費20万円
- ③ 外部委託：慶應義塾大学SFC研究所所属・高橋武俊助教（アンケート調査、コンサルティング等）
- ④ 共有地・共有施設：なし
- ⑤ 管理規約
 - 地区計画：なし
 - 建築協定：なし
 - 緑化協定：なし
 - その他：ニコニコ住民協定（2006年より）

2. 維持管理活動の概要

1) まちなみ形成の時期

江戸期は農漁村、明治期は日本最初の計画的別荘地として開発された（1887年東海道線開通。御用邸の候補地でもあった）。大正期は文人墨客逗留の地であり、「鶴沼風」という作風が流行、高級住宅地化した（関東大震災の被災からの避難地にもなった）。昭和期には、日本のビーチバレー発祥の地などとして、日帰りのリゾート地となった。

2) 活動の開始時期と活動の経緯

2002年度に、地域内で散見される乱開発に対し、年度末の組長会議で問題が提起された。そして、まちづくりへの取り組み開始を決定した。

2003年度は、行政の取り組み経緯と住民目線のまちづくりのテーマを整理した。

- ① 自治会にまちづくり役員を設置。
- ② 市の現在の取り組みに至った経緯や現在の制度について勉強会を開催。
- ③ 若いまちづくり活動協力者との連携（高橋氏は当時、慶應義塾大学SFC研究所員）。
- ④ 生活における「景観」の位置付けを把握（アンケート実施、回収率68.2%）。結果、「まちへの景観の不安」「地域としての防犯対策」が上位であった。

2004年度は、まちづくりの進め方の原則を定め、取り組むテーマの内容を具体化した。

- ① まちづくりの進め方を「住民の声に基づき、住民に無

理のない“自治”の活動」と決定した。

- ② 景観イメージ・問題意識・提案の整理（アンケート実施、回収率83.9%）。結果、「大きな樹木はまちの財産」「ルールの設定」の合意に至った。

2005年度は、住民の発想を活かす組織をつくり、まちへの提案を具体化した。

- ① まちづくりチームの結成
- ② ニコニコ憲章（ビジョン）の作成。
- ③ ニコニコ通信（自治会報）の作成。
- ④ ルール案・活動案の提示と確認（アンケート実施、回収率84.1%）。結果、ビジョン・内容に8割以上が合意した。法律のルールの検討への指摘もあった。

2006年度は、住民目線で地域に必要なことをルールとして守る体制を構築した。

- ① ニコニコ住民協定の締結：紙上総会で9割以上の合意を得た。
- ② ルールの告知：景観協定準備会の設立、市長へ提言、市役所関係各課へのプレゼン。藤沢市都市計画縦覧図に記載。

2007年度は、ルールを運用して、より適切な仕組みに更新する準備を行った。

- ① 住民協定の運用による運用ノウハウの構築と事業者・行政の事情把握。
- ② 協定の補強方法の検討。
- ③ 近隣への活動波及・情報共有として、6つの自治会の定期勉強会を開催し、松が岡5丁目里山保存活動へ協力した。

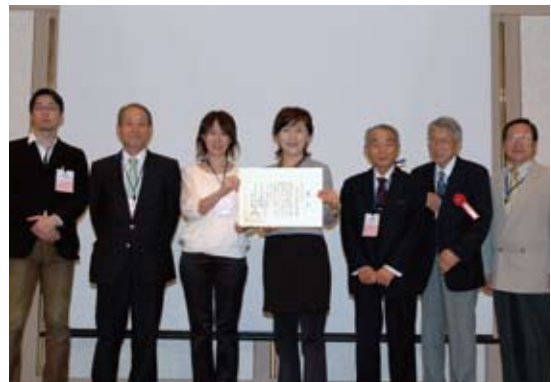
3) 現在の活動状況

2008～2009年度は、仕組みの更新案の作成と、ノウ





まちづくり連携町内会・自治会、藤沢市鵠沼地域（主に湘南学園を避難場所とする自治会）。



ニコニコ自治会。左から高橋武俊、大西勝彦、岡万樹子、稲生敬子、金子秀之、石黒栄一、服部隆二

ハウ等の地域共有・連携の機会を増やしている。

- ①景観法利用の意識確認（アンケート実施、回収率88.7%）。景観法利用への賛成は82.8%であった。
- ②景観法利用方法の具体化と住民説明会（2回）の実施。
- ③近隣自治会等と連携し、情報・ノウハウの共有を開始。連名で藤沢市に提言書を提出。現在、8町内会・自治会でまちづくり担当役員を設置（うち、4町内会・自治会でアンケート調査を開始）。

4) 今後の活動方針

- ①行政・事業者・住民の日々の活動が、生活環境をより良くしていくためのルールづくりに向けて、住民協定と景観条例を組み合わせた更新を行う。現在、ルール案を作成し、住民の合意状況を確認するアンケートを実施（集計中）。
- ②周辺の自治会や市民団体と経験・知見・情報を共有し、中・広域をカバーするまちづくりのレベルアップを行う。

ニコニコ自治会のまちなみの写真

<p>★1</p> <p>地域で人気の片瀬川（鵠川の同工エリアの通称）沿いの散歩コース。江ノ島まで30分。</p>	<p>★2</p> <p>地名から想起される風景の象徴的な存在の高い松。</p>	<p>★A</p> <p>鵠沼駅付近の江ノ電に面した家々の輪郭。江ノ電から見える緑も眺望らしさ。</p>	<p>★B</p> <p>青い空と深い緑の林。川面に浮かぶ船。護岸工事以前は川から直の池に入れた。</p>
<p>★3</p> <p>まちの表情を豊かにする家々の工夫。業者がお客様を案内するコースにもなる。</p>	<p>★4</p> <p>高い木々が豊なり、歩く人達に木陰を提供。竹垣・丸石は昔からの鵠沼を伝えている。</p>	<p>★C</p> <p>地域の里山（松が岡5丁目緑地）。保存運動の成功後もまちづくりを継続。</p>	<p>★D</p> <p>複数自治会が運営する安全・安心ステーション。防災・防災・景観と多岐にわたる連携連携。</p>

(2009年9月提出図書より一部を抜粋)